

第 123 回 REAAA 評議員会出席報告

鈴木 徹*

はじめに

アジア・オーストラレーシア道路技術協会 (Road Engineering Association of Asia and Australasia : 以下「REAAA」という) の第 123 回評議員会および関連する会議等が、2025 年 5 月 5 日、6 日にメルボルンで開催された。

日本からは、橋場評議員 ((公社) 日本道路協会 代表評議員)、鈴木評議員 ((公財) 高速道路調査会 代表評議員)、および黒田推薦評議員 (日本工営株) が現地に参加するとともに、首都高速道路株の土井弘次代表取締役専務執行役員もオブザーバー参加された。また、今回も YEP (Young Engineers and Professionals) 会議が開催され、東日本高速道路株の甲斐野氏、中日本高速道路株の北口氏、西日本高速道路株の鶴川氏、首都高速道路株の大村氏、阪神高速道路株の佐川氏および日本高速道路インターナショナル株の柴田氏、上村氏が出席した。なお、推薦評議員、舗装技術小委員会委員長の神谷氏 ((一財) 土木研究センター) はリモート参加された。

今回、5 月 7 日～9 日の間、メルボルンの NTRO (National Transport Research Organisation、Govt. of Australia) が主催する“The transport Revolution”をテーマとする国際会議が開催されており、この国際会議の一環として REAAA 評議員会などが開催された。

今回の出席報告では、評議員会等は鈴木が担当し、技術委員会 (以下「TC」という) は神谷氏が、YEP 会議については阪神高速道路株の佐川氏、日本高速道路インターナショナル株の柴田氏がそれぞれ担当する。

REAAA 行事の日程については、表 1 のとおりである。

表 1 第 123 回 REAAA 評議員会等の日程

2025 年 5 月 5 日(月)	9:00-13:00	7th YEP Meeting
	14:00-17:00	12th REAAA Business Forum
2025 年 5 月 6 日(火)	9:00-12:00	Working Committee Meeting
	12:00-13:00	Pre-Council Meeting
	13:00-16:00	123rd REAAA Council Meeting

1. 第 123 回評議員会 (写真 1)

会議は Dr. Sung-Hwan Kim REAAA 会長 (韓国) のあいさつと受け入れ機関である NTRO の Dr. Richard Yeon (REAAA オーストラリア評議員) による歓迎の

* REAAA 評議員、日本高速道路インターナショナル株代表取締役社長



写真—1 第123回 REAAA 評議員会 各国の評議員

辞によって始まり、前回バンコクで開催された第122回評議員会の議事録確認、財務委員会報告、事務総長報告がなされた後、各作業委員会（以下「WC」という）からの活動状況報告がなされる形で進行された。

(1)財務委員会報告

当報告では、①2024年12月31日終了年度の財務状況、②2025年3月31日までの3カ月間の収支に関して報告があった。

①2024年度の総収入は199,472 マレーシアリングギット（以下「RM」と示す）であり、予算額 RM328,065 の約61%に相当する。これら収入は、主に入会金および会費（期間中、RM148,245）、広告収入（期間中、RM16,000）、利息収入などから成り立っている。一方の支出であるが、RM254,693 であり、予算額 RM297,098 の約86%に相当する。

②この3カ月間の収入は、RM41,393 で予算額 RM489,310 の約8%である。内訳は、入会金および会費が RM29,190、広告収入が RM6,000、他利息等となっている。

相変わらずの厳しい財政状況である中、今後の取るべき行動が委員会から示された。すなわち、① REAAA の財政健全化に対して、評議員全員の援助が必要であること、② 評議員は、新規会員および広告の増進などが要請された。さらに、③ 新規加盟国の獲得が必要とされ、日本はベトナムに加盟を働きかけることとなった。

(2)各作業委員会（WC）活動報告

1) 会員拡大（C9）

REAAA の会員数の推移として、2024年7月31日

時点で1,197名であったものが、2025年3月4日時点で1,213名となっている。この期間中、48名が退会し、64名が入会したことによるものである。

委員会報告としては、今期会員数に関して、着実な成長が見られたとしており、今後も会員基盤の維持と拡大に努めるとしている。また、太平洋地域の国が現時点で加盟されていない状況を課題および機会として捉えると総括している。

2) 広告（C3WC7）

REAAA が公に情報発信する媒体としては、① Website、② Newsletter（年2回発行）、③ Technical Report/Journal である。これら3つの媒体には、民間企業からの広告を広く募っており、その収入は貴重な活動費となる。

今回は、今年度の目標値として、加盟11カ国は上記3つの媒体でそれぞれ1つずつの広告を獲得する目標が示された。現在までに、インドネシア、マレーシアで合計3件の広告申し込みがあるとのことだった。この目標を達成するために、各評議員が潜在的スポンサーを探すよう、より一層努力すべきとの発言があった。

3) REAAA Newsletter（C3WC2）

2024年度の2度目のNewsletterが、2025年4月1日に Climate Change Impacts on Road Engineering & Management をテーマに発行されている。また、今年度は、今年の10月頃に Future Roads: Hyper-Connection をテーマに発行される予定である。

今回報告では、この10月頃予定のNewsletterへの

投稿呼びかけが行われた。

4) Nomination Committee (C2)

次期チーム（第18期：2025年～2029年）の役員体制やその選挙に関する報告があった。

REAAAの定款では、会長や評議員などの任期は一期4年と定められており、4年に一度の道路会議（今年の10月韓国で開催予定）の際に改選されている。

現在、REAAA事務局によって会長や評議員など候補者の募集が行われているところである。ちなみに、国別の評議員数はその国の会員数によるとされており、現時点で120余名の日本は2議席を有する権利がある。

当執筆時点において、会長職には、台湾の Mr. Richard Jen-Chuen Moh が、また、日本からは、評議員として、（公社）日本道路協会から土井弘次氏（現首都高速道路㈱代表取締役専務執行役員）が、（公財）高速道路調査会から鈴木徹（現日本高速道路インターナショナル㈱代表取締役社長）が候補者として挙げられている。

また、今回の改選と合わせ、名誉会員についても推薦が募られている。候補者としては、日本からの橋場克司氏（現（一社）国際建設技術協会理事長）を含む15名が推薦されており、当評議員会において、この15名を名誉会員とすることに決まった。

5) Smart Highway 賞 (C7WC3)

Smart Highway 賞は、REAAA関係者の Smart Highway Management System の開発と応用における優れた功績と貢献をたたえ、これら開発の経験・ノウハウを共有し、道路工学の横断的統合と Smart 技術の応用を促進するために創設された。

最終的に17案件（韓国8、台湾4、マレーシア3、シンガポール1、タイ1）の応募があり、当 WC での審議の結果、“Automated Robot for Structural safety Management”（Korea Expressway Corporation）が受賞案件として承認された。10月韓国での REAAA Conference にて表彰式が行われる予定である。

6) 片平賞 (C6WC1)

片平賞は、道路関連工学における技術促進・高度化に若手の積極的な関与を奨励するために、REAAA 道路会議で発表された優秀論文に対し授与されるものである。また、2023年度に片平賞の表彰対象を従来の優秀な技術論文に加え、TC 活動で作成される優秀なケーススタディー・レポート等の報告書・論文を含め表彰することで変更が加えられた。

今回の評議員会では、小職より、今後のスケジュールについて報告した。すなわち、執筆時点においては、技術論文賞に関しては Abstract 審査通過案件について、6月末までに論文の提出が求められているところである。また、TC（Technical Committee）賞に関しても3つある TSC（Technical Sub Committee）の議長に優秀案件の選定が依頼されているところである。今後、審査が行われ、10月の韓国での REAAA Conference での表彰となる運びである。

7) 三野ベストプロジェクト賞 (C6WC2)

アジア太平洋地域において建設された道路または橋梁で、傑出したものと認められたプロジェクトを表彰するものである。

橋場評議員から説明があり、カテゴリ1（重交通路線）には、8つのプロジェクト（マレーシア4、インドネシア3、台湾1）の推薦があり、また、カテゴリ2（地方道）には、7つのプロジェクト（マレーシア2、インドネシア2、台湾3）の推薦があった。

WCでの審議の結果、カテゴリ1には Fengyuan-Tanzi Section, National Freeway No.4 (Taiwan) と Phnom Pen to Sihanoukville Expressway, Cambodia (Malaysia) が、カテゴリ2には、Sustainable Road Construction and Maintenance Plan for Provincial Highway (Taiwan) と Constructing a Bagan Datuk Bridge in the District of Southwest Perak to Kampung Sejagop in District of Central Perak, Perak Darul Ridzuan (Malaysia) が選定され、これら4案件が受賞案件として承認された。

8) Hwang 賞 (C7WC1)

Hwang 賞は、REAAA 名誉会員である Mr. Hwang Gwang-ung の寄付金により設立された賞である。この賞の目的は、アジア太平洋地域における道路セクターと地域の発展に多大な貢献を果たした REAAA 会員をたたえるものである。現在の状況は、受賞者の選定中である。

これまでの各賞の概要や REAAA の活動や今後の予定など REAAA のウェブサイトをご活用いただければ幸いである。(https://www.reaaa.net/)

2. REAAA Conference in Goyang 2025

今評議員会では、来たる 10 月に韓国 Goyang 市で開催予定の REAAA Conference の準備状況の説明が準備委員会委員長である Korea Expressway Corporation の CEO である Mr. Ham Jin Gyu 氏よりあった。概要は以下のとおりである。

- ・日程：2025 年 10 月 26 日～10 月 31 日
- ・会場：KINTEX 2 (Goyang city)
- ・メインテーマ：“Future Roads; Hyper-connection”

今回の Conference では、REAAA の行事の他に PIARC や IRF と共催の行事も各種予定されている他、ROTREX (Road & Traffic Expo) 2025 として展示が開催される予定であり、日本からも高速道路会社 6 社で展示ブースを設置する予定である。また、片平賞に関する技術論文の応募状況 (全 12 分野 239 編) の紹介があった。

本 REAAA Conference のウェブサイトを下に記すので、参考にしていただきたい。https://www.reaaaakorea2025.org/

3. 第 123 回以降の評議員会開催国の調整

次回第 124 回、125 回については、2025 年 10 月の REAAA Conference の中に開催される予定である。また、その次の 126 回については、2026 年 4 月 22 日～24 日、台北で開催されることが決まった。

4. まとめ

今回の評議員会では、10 月の REAAA Conference に向けた各種作業が活発化していることが感じられた。特に、Smart Highway 賞や三野ベストプロジェクト賞では、今回の評議員会で受賞案件が確定した。また、次期役員の改選作業も進んでおり、いよいよ今タームが終盤を迎える雰囲気である。また、私が担当する片平賞の準備に関しても、今回実際に賞を決める Judging Panel のメンバーで会合を持てたことは大きな成果と言える。

また、後段で報告があるが、YEP 活動の活発化を日本勢から提案し、今回、新聞紙で作るタワーの高さを競う催しを行ったことも大きな成果と言えるだろう。

今回は、日本の REAAA に関係する方々に多数のご参加をいただいた。結果として、REAAA の発展のために日本勢が大いに貢献する結果となった。ここに参加された皆さま全員に感謝の意を表したい。

来たる 10 月末に韓国 Goyang 市で REAAA Conference が開催される予定である。4 年に一度の大会であり、日本からも近く、参加しやすい環境だと思われるので、ぜひ、本紙面をご覧の皆さんはじめ関係の方々の多数のご参加をお願いして、本報告を閉じたい。

REAAA 技術委員会 (TC)・技術小委員会 (TSC) 報告 神 谷 恵 三*

本稿では、技術委員会 (Technical Committee) の全般と各技術委員会 (Technical Sub-Committee) の活動について筆者が報告する。

今回、諸事情により対面出席ができなかったものの、オンライン参加とすることにより所定の役目は全て果たすことができた。

今回の主催者 NTRO (National Transport Research Organization) はやや聞きなれない名称ではあるが、その前身 ARRB (Australian Road Research Board) が 2022 年 12 月から組織移転した経緯があることを付しておく。

○技術委員会

NTRO のメールアドレスを有する豪州の技術委員長 Dr James Grenfell (Mr Kieran Sharp 後任) にとっては今回が初の対面参加となった。彼は初心表明として技術委員会ならびに小委員会の活動をより実りあるものにしたいと述べ、そのためには参加国間の交流と相互作用を促進させるとともに小委員会のスコープも再定義してまいりたいと付け加えた。彼の意思が反映されるのは、実質的には 10 月の韓国大会後の次期フェーズからになると思われる。以下に彼の個別テーマ報告を述べる。

REAAA ジャーナル：二輪車の交通事故に言及した各国アンケート調査を終えており、道路の安全性小委員会 Marizwan 議長がこれの電子ジャーナル発刊にご尽力されてきたことが称賛された。

PIARC との連携：レジリエンス小委員会の Evans 議長が PIARC TC15 災害マネジメント委員会との共同ワークショップを実施していることのほか、他の PIARC 関連技術委員会とも連携していることが述べられた。

統計 Data：年間の道路死亡者数等の統計 Data のアップデートについては、評議員会事務局が毎年の照査を行うことの必要性が述べられた。しかし、具体的な運用方法については今回も未定である。

片平賞審査パネル：10 月の韓国大会における片平賞の審査体制が紹介された。従前の論文賞については、韓国論文委員会が絞り込んだ 10 編が審査パネルへ提出される。その後、委員会が順位付けを決定することとなる。今回の大会から、初の試みとして各技術小委員会から議長選出による推奨論文もこの審査パネルの下で順位付けがなされる。

○舗装小委員会

午後からの評議員会に先立ち、午前中に技術小委員会の各セッションが持たれることとなっていた。これは NTRO のご厚意によるものであるが、1 日前の通告であるとともに、筆者がオンライン参加であったので全く準備なしの状態であった。Grenfell 氏から連絡を受けた際、筆者の ARRB 旧友も出席することを聞かされたので、開催することを決意した。セッションの内容は、筆者が議長を務める舗装技術小委員会の成果報告というもっともらしいものを考えたが、これ以外に場をしのぐ余裕など全くなかったのが本音である。

この舗装セッションは、議長のみがオンライン参加という違和感から始まった。冒頭で出席者への謝辞を述べた後、今期の本小委員会テーマである舗装修繕のカントリーレポートを収集・編纂作業を進めており、最終的には全 11 編の論文集になると報告した。この論文集は、Pothole 関連 3 編、Recycling 関連 4 編、Resilience 関連 4 編という章立てとなる。このうち、日本と豪州から各 3 編を執筆したことに鑑みて、豪州レポートを詳細に振り返ることとした。

説明を付しながら、豪州では路盤の安定処理と再生を同時に行うという事例、さらには二酸化炭素排出の試算量まで行うというアカデミックさを保持していることに自ら再認識することとなった。広い国土を有する豪州では、コスト節減と費用対効果を常にローカルベースで考えねばならない。未舗装道路が多い豪州では日本とは異なる困難さがあるといえる。

筆者の旧友の手助けもあり、この舗装セッションは活発な議論により終えることができた。しかし、最も勉強になったのは誰よりも筆者であると思われる。

午後の評議員会の報告では、マイク不調のため筆者に代わり Grenfell 氏が筆者のスライド説明をご担当された。内容は午前中セッションの冒頭部分をさらにコンパクトに述べるものであった。しかし、レポートの字句修正といった編集作業は、昨夏に退官された前技術委員長の Sharp 氏のご尽力によるものであることを述べていただいた。また、現在は技術委員長 Grenfell 氏の調整事項もご本人自らご認識いただくこととなった。

* (一財) 土木研究センター技術研究所 道路研究部 部付部長

○道路安全小委員会

議長からの指名を受けた後、小委員長 Muhammad Marizwan bin Abdul Manan から、現況報告がなされた。まず、彼のスライドタイトルは Road Safety, Database & Technical という、従来委員会名に 2 語付け加えられたものとして紹介された。ここから連想できるように、中身は交通事故統計等のデータベースを REAAA 内で構築を目指すというものであった。新たなアンケート調査項目とスケジュールが紹介された他、リスク要因を分析していくフローが示された。

○レジリエンス小委員会

PIARC Strategic Theme 1 コーディネイターを兼務する Caroline Evance 小委員長から、本小委員会の重要性が説明された。昨今の異常気象は地球温暖化現象の一端であり、各所で自然災害が報告されている。

小委員会はこのような災害の中で、道路の復旧方法とその後の防止策等について知見を集積していくというものである。本件は PIARC の中でも重要テーマに位置付けられており、彼女の小委員会とも密接な結びつきを有している。

これまでの取組みが報告された。その中には昨年バンコクで開催された iCHE2024 会議のほか PIARC との共同セミナーも含まれている。また、昨年 2 月には、REAAA Newsletter において時点成果を報告している。これらの技術情報は、技術レポートの中に取り込まれており、その編纂作業も終えている。

さいごに、5 月末に大阪で開催予定の REAAA/PIARC 国際ワークショップが紹介された。大阪・関西万博の視察も視野に入れた共同事業となるので、参加国による積極的な参加が見込まれ、さらなる充実した成果が期待できそうである。

REAAA 第 27 回若手技術者・専門家会議出席報告

佐 川 弘* 柴 田 祐 希**

はじめに

REAAA 第 123 回評議員会の開催に先立ち、第 27 回若手技術者・専門家（Young Engineers and Professionals：以下「YEP」という）会議が、2025 年 5 月 5 日にオーストラリアのメルボルンで開催された。YEP 会議は各国の若手の道路専門家の交流を目的として開催され、2012 年 4 月の第 1 回会議以降、評議員会と合わせて年 2 回程度開催されている。

1. 第 27 回若手専門家（YEP）会議の概要

本会議には、ホスト国のオーストラリアをはじめ、フィリピン、タイ、インドネシア、台湾、韓国、シンガポール等、約 20 名の YEP が本会議に参加した。

表—1 各社の YEP

所属	氏名	現地参加
東日本高速道路(株)	甲斐野 翼	○
中日本高速道路(株)	北口 修	○
西日本高速道路(株)	鶴川 慶次郎	○
首都高速道路(株)	大村 陽	○
阪神高速道路(株)	佐川 弘	○
本州四国連絡高速道路(株)	下瀬 恒大	
日本高速道路インターナショナル(株)	柴田 祐希	○
日本高速道路インターナショナル(株)	上村 健太	○

日本からは 6 名の YEP が参加した（表—1）。

YEP 会議では、各国からの活動報告（アップデート）が行われ、若手技術者の育成プログラムに関して等、さまざまな内容の共有がなされた。その他にも技術プレゼンテーションとして韓国、台湾、日本の発表が行われた。韓国からは、トンネル内の交通管理システムの高度化に関する事例紹介があり、交通の円滑化と安全性向上を図る取組みが紹介された。台湾からは、橋

* 阪神高速道路(株)技術部国際室

** 日本高速道路インターナショナル(株)プロジェクト部門

梁の耐震補強とその構造解析に関する発表があり、耐震性能の向上を目的とした実践的なアプローチが共有された。日本からは橋梁の大規模更新プロジェクトおよび工事中の安全対策に関しての発表を行った。

また開催場所である NTRO (National Transport Research Organisation) の企業紹介も行われた。最後に今後の YEP 会議について議論が行われ、ホスト国が司会進行を担うことで各国の主體的な関与を促すべきとの意見や、より多くの YEP メンバーに参加してもらえよう工夫が必要であるといった意見が交わされた。これらの議論を通じて、YEP 会議の今後の発展に向けた意識共有が図られ、最後に記念撮影を行い会議は終了した (写真—1)。



写真—1 YEP 会議参加者で記念撮影

2. YEP イベント (News Paper Challenge) の開催

YEP 会議の翌日には、前回のタイ大会において日本から提案していた、YEP 間の交流促進を目的としたイベントが開催された。これまで YEP 同士の横のつながりが十分でなかったことから、各国の YEP 間の相互理解と関係構築を促すことを目的として企画されたものである。形式的なグループディスカッションに比べ、活動イベントの方が交流の促進が期待できることから、新聞紙を用いたタワーづくりのアクティビティが選定された。

当日は、各国の YEP メンバーに加え、NTRO 職員も参加し、総勢 15 名以上が集まった。4 人 1 チームとなり、限られた素材でできるだけ高いタワーを作るというルールで行われ、参加者同士が自然に声をかけ合いながら取り組む姿が見られた (写真—2)。終始和やかで活気ある雰囲気に包まれ、当初の目的であっ

た YEP 間の交流促進に大きく寄与したものと考えられる。優勝チームと準優勝チームには、イベント翌日から開催された国際会議の参加者に配布されたグッズが贈呈された。最後に記念撮影を行い、イベントは盛況のうちに終了した (写真—3)。今後も、同様の取組みが継続されることを期待したい。



写真—2 優勝チームの新聞紙タワー



写真—3 イベント後の記念撮影

3. 参加所感

本会議に先立ち、国内 YEP 同士の連携強化を目的として、事前に国内活動を行い、技術や経験を共有する場を設けた。こうした取組みを踏まえて臨んだ本会議では、日本での取組みに対し、他国の YEP から高い関心が寄せられ、率直な意見交換が実現した。国境を越えた共通課題への理解と連帯感が深まり、有意義な意見交換の機会となった。

次回は 2025 年 10 月に韓国 Goyang 市での開催が予定されており、日本の YEP としても引き続き国内での活動を充実させ、より実りある国際的な発信と連携を目指していきたい。